

ファッション・トレンドについて

—スカートの場合—

長 塚 こずえ
(昭和63年9月30日受理)

A Study of Fashion Trends in Skirt

Kozue NAGATSUKA
(Received September 30, 1988)

緒 言

流行がめまぐるしく変化する中で、学生が被服立体構成の授業で作品を製作する時、スタイルブックを参考にいろいろな夢を描き、デザインを決定している例が数多くみられる。

時代の流れに沿ったファッションを考えるには、さまざまなマスコミによる情報の中でもスタイルブックのあたえる影響は大きいと考えられる。そこで、被服造形の基礎ともいえるスカートについて、どのような形がスタイルブックに掲載されているかを考察した。

図1に示すように、日本ホームソーイング振興会による調査報告「ホームソーイングレポート'86」(1,640人対象)によると、この一年間にソーイングしたものでは、洋服ではスカートが60.1%で圧倒的に多く、学生ばかりでなく、一般女性にとっても被服製作という、まずスカート製作をさしていることが理解できる。デザインを決めるには何を参考にするかを学生251名に聞いたところ、58.2%がスタイルブックを第1位に答えている。このことからスタイルブックのはたす役割の大きいことが考察される。(図2)

そこで、1986年から1988年の3年間について、スカートの流行の移り変わりを調査した。

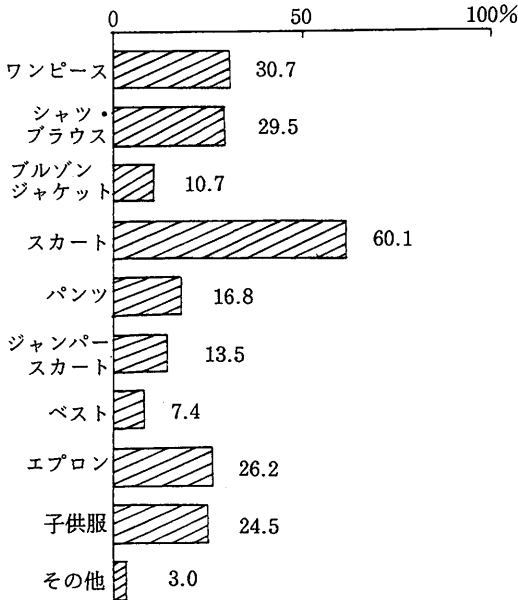


図1 この1年にソーイングしたものは何か。

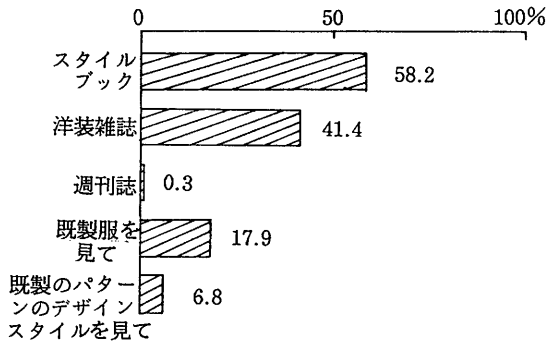


図2 デザインを決める時、何を参考にするか。

研究方法

表1 調査対象

	装 苑	ドレスメーカーキング	レディブティック	合計
'86	84	58	95	237
'87	58	68	44	170
'88	55	67	102	224
	197	193	241	631

表2 スカートの型(ファッショントレンドについて)

雑誌名 スカートの形態	装 苑			ドレスメーカー			レディブティック			合 計		
	'86	'87	'88	'86	'87	'88	'86	'87	'88	'86	'87	'88
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
スリム 脇線より 0.5cm		1 0.6	1 0.4		4 2.4	1 0.4			4 1.8		5 2.9	6 2.7
スリム 脇線より 1 cm	10 4.2	12 7.1	11 4.9	4 1.7	8 4.7	7 3.1		1 0.6	20 8.9	14 5.9	21 12.4	38 17.0
スリム 脇線より 1.5cm		1 0.6	3 1.3	2 0.8	5 2.9	8 3.6				2 0.8	6 3.5	11 4.9
スリム 脇線より 2 cm		7 4.1	5 2.2		2 1.2	5 2.2		1 0.6	8 3.6		10 5.9	18 8.0
スリム 脇線より 2.5cm					2 1.2	2 0.9					2 1.2	2 0.9
スリム 脇線より 3 cm		1 0.6				1 0.4			1 0.4		1 0.6	2 0.9
スリム 脇線より 4 cm			2 0.9									2 0.9
タイト	12 5.1	8 4.7		10 4.2	9 5.3	10 4.5	16 6.8	3 1.7	25 11.2	38 16.0	20 11.7	35 15.6
セミ・タイト	4 1.7	2 1.2	1 0.4	2 0.8	6 3.5	3 1.3	32 13.5	6 3.5	11 4.9	38 16.0	14 8.2	15 6.7
フレアー	6 2.5	8 4.7	5 2.2	2 0.8	3 1.7	1 0.4	2 0.8	2 1.2	4 1.8	10 4.2	13 7.6	10 4.5
ゴアード	5 2.1	3 1.7	8 3.6	7 3.0	5 2.9		10 4.2	1 0.6	11 4.9	22 9.3	9 5.3	19 8.5
ギャザー	18 7.6	7 4.1	4 1.8	10 4.2	7 4.1	7 3.1	2 0.8	7 4.1	3 1.3	30 12.6	21 12.4	14 6.3
フレアー・ギャザー	10 4.2	3 1.7	2 0.9	2 0.8	1 0.6	1 0.4	3 1.3	1 0.6		15 6.3	5 2.9	3 1.3
セミ・サーキュラー	3 1.3		1 0.4		1 0.6	3 1.3		1 0.6	1 0.4	3 1.3	2 1.2	5 2.2
サーキュラー			3 1.3		1 0.6	2 0.9		2 1.2			3 1.7	5 2.2
オールプリーテッド	1 0.4				1 0.6	2 0.9	4 1.7	2 1.2		5 2.1	3 1.7	2 0.9
ティアード		1 0.6	2 0.9			2 0.9				7.2	1 0.6	4 1.8
キュロット(デバイテッド)	3 1.3			7 3.0	5 2.9	4 1.8	7 3.0	2 1.2	6 2.7	17 7.2	7 4.1	10 4.5
タック	12 5.1	4 2.4	7 3.1	12 5.1	8 4.7	8 3.6	19 8.0	15 8.8	8 3.6	43 18.1	27 15.9	23 10.3
	84 35.4	58 34.1	55 24.6	58 24.5	68 40.0	67 29.9	95 40.1	44 25.9	102 45.5	237 100.0	170 100.0	224 100.0

対象としたスタイルブックは、常に学生が利用しており、代表的なものといえる装苑・ドレスメーカー・レディブティックの三誌とした。月刊誌にくらべて豊富なデザインが数多く掲載される別冊の盛夏号の中から、スカートをすべてぬきだし、型・丈・色・柄・素材を分類し、ファッション・トレンドの傾向を調査考察した。

調査対象のスカート数は表1に示した。

調査結果と考察

1 スカートの型

流行がいちばんはっきりとあらわれるスカートの型は表2に示した。

'86年はタック・スカート18.1%、セミ・タイト・スカートとタイト・スカートの16.0%が目立っているが、他にギャザー・スカートやマーメイドラインのゴアード・スカートなどの女性らしさを主体としたシルエットや活動的なキュロット・スカートも目をひいている。

'87年はタイト・スカート、セミ・タイト・スカート

の割合が減り、かわりにスリム・スカートが4枚に1枚の割合でみられ、'86年の6.7%から26.5%まで増加した。タック・スカートとギャザー・スカートは'86年とほぼ同じ割合でみられる。

'88年はさらにスリム・スカートの割合が増加し、全体の35.5%までになった。タイト・スカート、ゴアード・スカートは'86年と同じくらいの割合でみられるが、他のスタイルは、わずかながら減少しているものが多い。

スリム・スカートは各年とも、脇のラインより0.5~4cmまで内側に脇線が入った製図が掲載されており、スカート丈に応じて、後中心に20cm前後のスリット又はパンツが明けられているデザインが目立つ。'88年は特にスリム・スカートにオーバースカートをプラスしたデザインや部分的にフリル、プリーツ、ドレープなどを生かした女性らしさを強調したデザインが目をひいている。スカートの型に左右されずに、インサイドベルトを使用しないハイ・ウエストの型もあらわれている。

2 スカート丈

表3 スカート丈(ファッショントレンドについて)

雑誌名 スカート丈	装苑			ドレスメーカー			レディブティック			合計		
	'86	'87	'88	'86	'87	'88	'86	'87	'88	'86	'87	'88
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
~ 45cm		1 0.6								1 0.6		
46 ~ 50cm		1 0.6	16 7.1	1 0.4		3 1.3				1 0.4	1 0.6	19 8.5
51 ~ 55cm		3 1.7	22 9.8	2 0.8	3 1.7	8 3.6			1 0.4	2 0.8	6 3.5	31 13.8
56 ~ 60cm	4 1.7	12 7.1	8 3.6	1 0.4	2 1.2	13 5.8			4 1.8	5 2.1	14 8.2	25 11.2
61 ~ 65cm	2 0.8	8 4.7	4 1.8	2 0.8	10 5.9	14 6.3	6 2.5		38 17.0	10 4.2	18 10.6	56 25.0
66 ~ 70cm	2 0.8	4 2.4	2 0.9	8 3.4	19 11.2	19 8.5	43 18.1	11 6.5	43 19.2	53 22.4	34 20.0	64 28.6
71 ~ 75cm	10 4.2	10 5.9	1 0.4	23 9.7	21 12.4	8 3.6	42 17.7	17 10.0	15 6.7	75 31.6	48 28.2	24 10.7
76 ~ 80cm	43 18.1	14 8.2	1 0.4	16 6.8	9 5.3	2 0.9	3 1.3	12 7.1	1 0.4	62 26.2	35 20.6	4 1.8
81 ~ 85cm	20 8.4	4 2.4	1 0.4	5 2.1	4 2.4		1 0.4	4 2.4		26 11.0	12 7.1	1 0.4
86 ~ cm	3 1.3	1 0.6								3 1.3	1 0.6	
	84 35.4	58 34.1	55 24.6	58 24.5	68 40.0	67 29.9	95 40.1	44 25.9	102 45.5	237 100.0	170 100.0	224 100.0
スカート丈平均値(cm)	77.52	60.08	55.28	81.09	70.10	63.43	70.28	74.22	66.51	76.30	70.80	61.70
最も短かい丈 (cm)	56.00	45.00	47.00	45.50	54.00	47.00	64.00	67.50	52.00	45.50	45.00	47.00
最も長い丈 (cm)	92.00	87.00	82.00	84.00	83.50	79.00	83.00	84.00	76.00	92.00	87.00	76.00

スカート丈を5cmきざみに分類し、雑誌別にあらわしたものが表3である。それぞれの特色がでておもしろい結果となった。装苑はヤング向けでミニ丈の傾向が強く、レディブティックはヤングミセス対象のためか、'86年、'87年はひざ下丈のスカートのみで、ミニ・スカートといえるひざ上丈(スカート丈60cm以下)のものはなかったが、'88年はわずかながらミニ丈もみられ、'86年以來のミニ復活の影響がみうけられた。

スカート丈の平均値を全体的にみると、'86年76.3cm、'87年70.8cm、'88年61.7cmとなり、'86年より徐々にスカート丈は短くなり、'87年は約5cm、'88年はさらに9cm程短くなった。各年とも、最も短かい丈は46cm前後でほとんど差はないが、最も長い丈は'86年と'88年では16cmの差がみられる。

'86年と'87年は71~75cmを中心として、66~80cmの間の丈が多いが、'88年は61~70cmの丈が占める割合だけで、53.6%になり、流行の変化を知ることができた。

3 色の傾向と柄

図3はスカートの色の傾向を示した。夏物のため、各年とも、それぞれのスタイルブックに白の割合が多くみ

られる。夏物というときさわやかな印象のものを求める傾向が強く、海の色である青と、それにいちばんマッチする白は流行に影響されずに用いられている。

'86年は他に、ブルー、グレー、茶などの落ち着いた感じの色が目立つ。

'87年は黄色、淡い青の系統、紺系統の濃い青などが目立ち、ファッション界の流行色といわれたグリーンとの割合が、意外に少ない結果となった。数は少ないが、鮮やかなエメラルドグリーンやパステルカラーのミントグリーンなどは新しい色として鮮烈な印象を与えている。

'88年は黒の割合が'86~'87年に比べ3倍に増加した。他の色では、全体的にやさしい感じのパステル調の淡い色の系統とビビットなハッキリした色の系統がみられる。

図4は有彩色と無彩色に分けて無地と柄物について分類した結果である。'86年に比べ、'87年には有彩色の占める割合が増加しており、モノトーン指向の流行から明るい新しい色へと流行が変化している状況が考察できる。'88年は無彩色の割合が50%をこえたが、白・黒・グレーを土台にした柄物が増加した結果である。

無地と柄物の割合は各年ともほとんどかわらず、4対

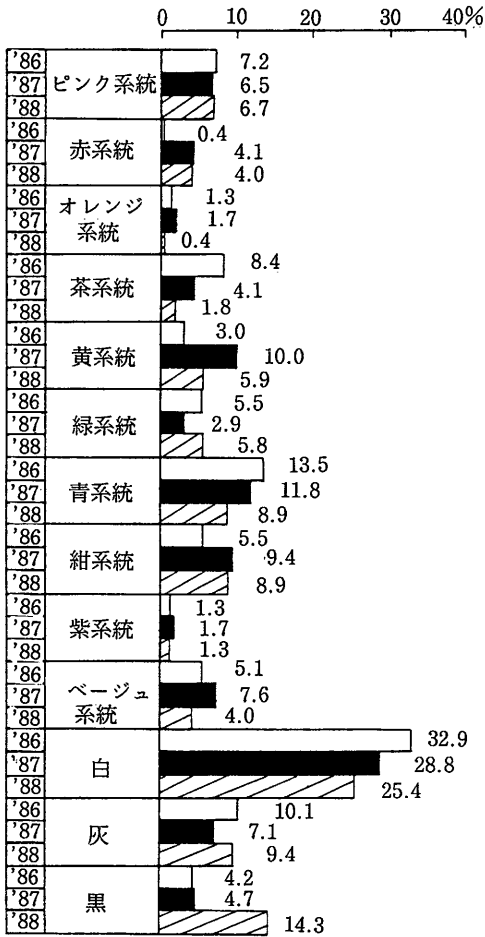


図3 スカートの色の傾向

6の割合で柄物が多い。'86~'87年は有彩色、無彩色とも無地より柄物の割合が多くみられるが、'88年は有彩色の無地が多くなり、今までと異なった傾向がみられる。

柄物の中では、各年とも水玉が1割を占め、水玉は流行に左右されることが考察できる。他に、格子・縞・花柄・幾何学模様・その他さまざまな柄のプリント・織により柄が浮きでているものなど、多種類の柄がみられる。'86年は水玉・縞・格子・花柄など均等にみられ、'87年はエスニック調やロマンチックなムードのプリント柄の割合が増加し、'88年になると花柄が17.5%みられ、花柄流行の傾向を示している。特に春から夏にむかい「ひまわり」の柄はスカートだけでなく、Tシャツ・ブラウス・パンツ・ワンピースなどの衣類をはじめ、靴・バッグ・傘・アクセサリに至るまで数多くみられた。

柄物に使われた配色をみると、モノトーンブームの影響もあり、各年とも白・黒・グレーが使われている割合が目立つ。水玉・格子などの場合は、白地に黒又はグレーの水玉や格子が多くみられ、縞は青と白のコードレーンやペンシルストライプなど、細かい縞がみられた。

プリント柄は様々な配色がみられるが、同色系どうしの配色や色の系統は違っても同じトーンの組み合わせなどがあり、'88年はとくに多色使いの花柄が目立つ。

柄物に使われた配色数の合計をみると、'86年がいちばん多く、有彩色と無彩色を合わせた柄物の割合がわずかながら他の年に比べて多いことと関係している。

4 素材の傾向

図5は素材の傾向を示した。夏物のためか天然繊維を使用する割合が高くなっている。

'87~'88年は半数が綿100%を占め、'87年にはわずかながら減少した麻100%と綿・麻混紡が'88年には再び増加しており、'84年以来の麻ブームが引き続いているものと思われる。'88年はとくに新しい素材として高級感のある超長綿をはじめとする各種の綿が使われている。

ポリエステルは、わずかながら減っており、かわりに'86・'88年にみられるようなレーヨンと他素材の組み合わせや、まったく性質の異なった素材どうしの組み合わせも徐々にみられ、新しいものを求める傾向がみられた。

5 スカートのシルエットについて

スカートの流行の移り変わりを考える時、いちばんはっきりとした結果がみられるのは、丈と型であらわすシルエットである。図6は二つの関係を示した。

'86年はスカート丈71~75cmのタック・スカート、66~70cmのセミ・タイト・スカートが目立った。

'87年はタック・スカートの他、56~70cmまで幅広い範囲でスリム・スカートがみられ、'86年からのミニ復活の傾向がよりはっきりとあらわれた。

'88年はさらにスリム・スカートの割合が増え、ノーマル丈のタイト・スカートも目立つ。

夏物スカートの流行の傾向が、ひざ下丈のタック・スカート、セミ・タイト・スカート、ギャザー・スカートからひざ丈又はミニ丈のスリム・スカート、タイト・スカートへと移ったことが図から読みとれる。

まとめ

1986~1988年のスタイルブックに掲載されているスカートの傾向を調査した結果、次のことがわかった。

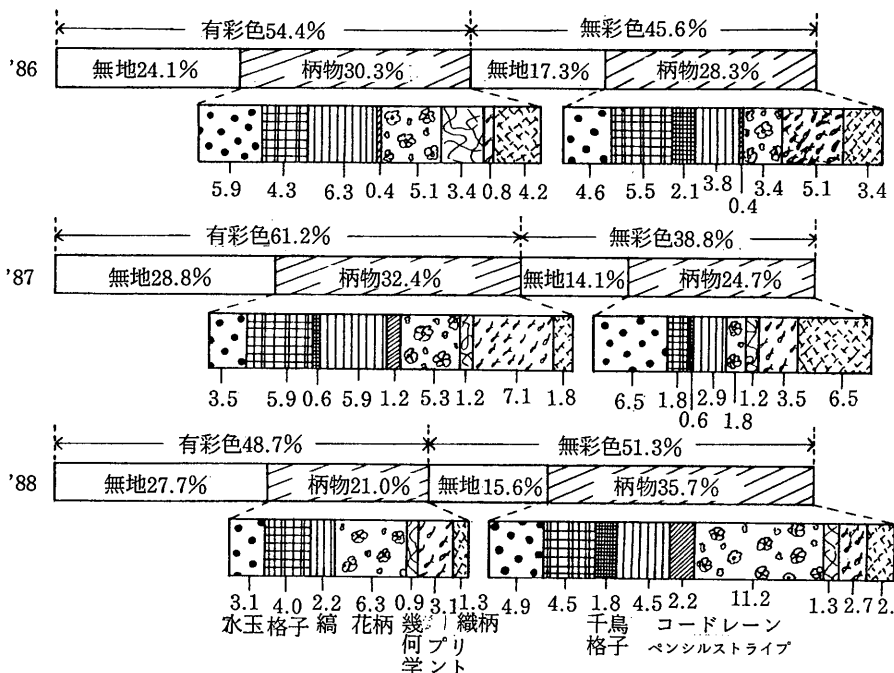


図4 無地と柄物の割合

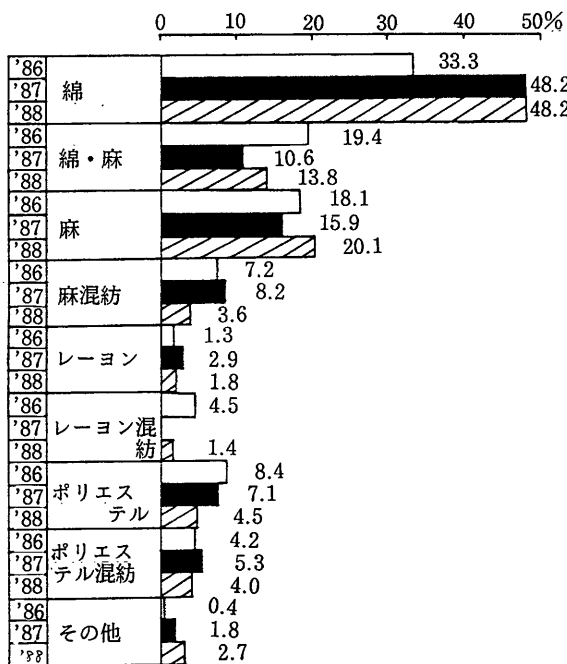


図5 スカートの素材の傾向

①スカートの丈は、ひざ下丈中心からノーマル丈・ミニ丈へと流行が変化している。

②レトロブームの影響から、より女らしさ、かわいらしさ、優雅さを求める傾向があらわれたデザインが目立つ。

③黒白のモノトーンの流行から、新しい色へと流行が変化し、感性の時代を象徴して、さまざまな色・柄がみられる。

④エレガントなものは高級感のある上質の素材が用いられており、全体的に新しい素材や高品質な素材を嗜好する傾向が強い。














今回は、スタイルブックにみるファッション・トレンドについて、スカートを取りあげたが、さらに学生のファッション・トレンドに対する意識や製作品との関係についても研究を続けたい。

尚、本研究の一部は昭和63年5月、日本服飾学会において口答発表したものである。

最後に、本研究にあたり、終始ご助言をいただいた本学大江チエ講師に感謝いたします。

参考文献

- 1) 日本ホームソーイング振興会：ホームソーイングレポート'86 (1987)

スカート の型		スリム	タイト	セミタイト	フレアー	ゴアード	ギャザー	フレアーギャザ	セミサーキュラ	サーキュラ	オールブリー テッド	ティアード (デバイテッド)	キョロット (デバイテッド)	タック
スカート 丈														
45cm	'86													
	'87	0.6												
	'88													
50cm	'86						0.4							
	'87	0.6												
	'88	4.5			0.9		0.4			0.9		0.4		1.4
55cm	'86	0.4											0.4	
	'87	2.4	1.2											
	'88	6.3	0.9		0.9	2.2	0.9	0.4	0.4	0.4	0.4		0.4	0.4
60cm	'86	0.4	1.3				0.4							
	'87	4.7	1.7	0.6			0.6	0.6						
	'88	6.7		0.4	0.9	0.4			0.4	0.9		0.4	0.9	0.4
65cm	'86	0.4	1.7	1.7		0.4								
	'87	6.5	1.7	0.6	0.6		0.6							0.6
	'88	13.9	6.7	0.4	0.9	0.4	0.9							3.6
70cm	'86	0.4	4.2	8.4	0.4	3.0	1.3	0.8			1.3		0.4	2.1
	'87	7.6	2.9	2.4	1.2	0.6	2.4	0.6		0.6	0.6			1.2
	'88	4.5	8.0	4.0	0.4	3.6	2.2		0.4		0.4		0.9	4.0
75cm	'86	0.8	5.5	3.0	2.1	3.0	2.5	0.8			0.8		3.0	10.1
	'87	2.9	3.0	2.4	1.7	2.9	3.5	1.2		0.6	0.6		1.2	8.2
	'88			1.8	0.9	1.8	1.8	0.4	0.9			0.4	1.8	0.9
80cm	'86	3.0	1.7	3.0	1.7	2.1	4.6	3.4	0.8				1.7	4.2
	'87	1.2	1.2	2.4	3.5	0.6	2.9	0.6	0.6	0.6		0.6	2.4	4.1
	'88										0.4		0.4	0.9
85cm	'86	1.3	1.7			0.8	2.5	0.8	0.4				1.7	1.7
	'87					1.2	1.7	0.6	0.6				0.6	1.7
	'88							0.4			0.6			
86cm	'86						0.4	0.8						
	'87				0.6									
	'88													

- 2) 長塚こずえ, 雲田直子: 衣生活, 第30巻, 第5号, 50~54 (1987)
- 3) 川上雅子: 家庭科教育, 62巻, 4号, 73 (1988)
- 4) 長塚こずえ: 日本服飾学会第9回総会・大会, 研究発表抄録, 18 (1988)
- 5) 木曾山かね: 服装造形のためのデザイン, 同文書院, (1974) p127
- 6) 尾中明代, 木曾山かね編著: 被服立体構成ドレス編, 家政教育社 (1977) p62